

目的 同一デザイン、同一ゆとり量の衣服でも衣服地の物理的性質が異なる場合、同一の衣服地でもゆとり量が異なる場合、同一の衣服でも着装の仕方により、更に、着衣基体の形態および姿勢により、着衣時の衣服形態は異なる。本研究では、着衣基体上に衣服がどのように着装されているかを把握するために、マネキン表面から衣服表面までの形、大きさについて検討した。

方法 ドレープ性の異なる A, B, C の衣服地により同一デザインで同一のゆとりを持つワンピース、衣服地 B によりゆとり量の異なるフレアスカートにマネキンに着用させ、上半身 6 部位、下半身 5 部位のマネキンと衣服表面との断面を重ねて描いた。各部位の断面曲線を 36 等分し、1 区分ごとにマネキン表面から衣服表面までの面積を求めた。また、衣服のドレープのノード数、衣服がマネキン表面に最も近接した M 点を通る線をひき、この線から各ノードの山の高さ、ノード間の谷までの距離および振幅を求めた。

結果 ドレープのノード数はワンピースではドレープ係数の小さい衣服地 A が、スカートではヒップラインより上でゆとりの大きいスカート B が、それより下ではスカート A が大きい。マネキン表面から M 点までの距離、M 点を通る線から谷までの距離は衣服地 A が小さい。山の高さは衣服地 A が小さく、衣服地 B、C 間およびスカート間に差がみられないが、ノードの山の位置は衣服地 B では腕の前後にのみみられ、衣服地 C は腕の付近およびマネキンの前面、後面にもみられ広い範囲にわたって面積が大きい。スカートでは山の位置はスカート間に差があまり見られぬが山の高さはゆとりの大きいスカートが大である。